



# 花さき山



タイトル文字：滝平二郎



## ブックスタートクラブ

### 【幼児向けおはなし会】

毎週水曜日は視聴覚室開放 day♪

2月 7日、14日、28日

⇒10:00～

2月 21日 ⇒11:00～



## 2月のおはなし会

《図書館スタッフ》（児童室）

いつ：2月3日（土）・17日（日）

時間→11:00～

《「やまびこ」さん》（児童室）

いつ：2月18日（日）

時間→11:00～



## 音読会

場所：明野図書館 視聴覚室

日時：2月6日（火）

11:00～12:00

気軽に発声練習してみませんか？

もちろんお子さんも参加できます☆

2月、3月のテーマは、

『松尾芭蕉』！

## 2月は子ども向け映画会

### 昔話のアニメ&紙芝居のおはなし会 が楽しめます☆

場所：明野図書館 視聴覚室

日時：2月24日（土）10:30～

内容：・アニメ「いっすんぼうし 他」  
（上映時間：30分）

・紙芝居の読み聞かせ



## おりがみで 壁デコ！

場所：明野図書館 視聴覚室

日時：2月25日（日）

11:00～12:00

みんなで折ったおりがみで、明野  
図書館の玄関を飾りませんか？

どなたでもご参加いただけます！

持ち物もありません。

お申込不要、無料です。

## 大人の図書館体験

場所：明野図書館

日時：2月2日(金)、3日(土)、4日(日)

いずれも10:30～12:00

内容：2日「配架作業（返却本を書棚に戻す作業）」、

3日「読み聞かせ」、4日「本の修理」

☆申込み不要！体験したい日に直接 明野図書館 カウンタ  
ーまでお越しください。

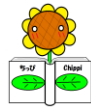


## 2月の特集コーナー

場所：明野図書館 カウンター前「特集コーナー」

期間：2月1日（木）～2月28日（水）

内容：二月のテーマは「おもしろい」です。どんな本が並ぶ  
のか…。ぜひご来館の際は、お立ち寄りください(\*^\_^\*)



## 年の始めに当たって郷土史語録の光り輝き —私が学んだもの—

板橋英雄

平成 29 年 5 月 21 日、私は自由民権加波山事件研究会会長桐原光明、白石事務局長の会員として、筑西市茂田ザヒロサワシティで一カ月一回開催している勉強会に参加いたしました。(詳細は『自由民権加波山事件研究会』会誌、特集第 2 号参照)午後一時から史跡めぐりを行い、最初に見学したのは高松市郎次氏宅を訪問。最後に石倉遺跡で終了いたしました。この石倉遺跡には、万葉集の歌碑 1 首があり大変驚きました。まさかここでこの 1 首を勉強出来るとは考えておりませんでした。筑波山や養蚕、恋人など謳歌するすばらしさに気づきました。

<原文>

筑波嶺の新桑繭(にひぐはまよ)の衣(きぬ)あれど君が御衣(みけし)しあやに着欲(きほ)しも(巻 14、3350)

<現代語訳>

筑波山の新しい桑の若葉で養った繭でつくった衣はあるけれど、あなたのお召し物をむしろに着たいと思うのです

この歌を発見したことにより「文学・歴史(郷土史)は歳を重ねれば重ねるほど光り輝く」平成 9 年 2 月 22 日(桐原光明郷土史語録より)という郷土史語録を思い出しました。そこで最近約 2 年間に勉強した文学者について手持ちのノートで確かめました。その結果長塚節(平成 28 年 3 月 21 日勉強)から始まり北村透谷(平成 29 年 6 月 25 日勉強)まで 7 名の文学者(夏目漱石、正岡子規、樋口一葉、田山花袋、与謝蕪村を含む)を学びました。特に平成 28 年 3 月 21 日茨城県立図書館で「長塚節文学の未来性」と題して桐原光明長塚節研究会会長の講演会があり、私は筑西市郷土史を考える会員として参加いたしました。膨大な資料をもとにときどきユーモアをまじえての話に聴講者約 100 名近くの人達も魅了され講演時間 2 時間があっという間に過ぎました。

長塚節は 1896 年(明治 29 年)17 歳で初めて正岡子規の文に接し、1900 年(明治 33 年)3 月、21 歳で上京し子規を訪ねました。その後 1902 年(明治 35 年)9 月、23 歳で子規の訃報に接し上京して葬送に従いました。この 2 年の間に子規より文学や生き方などの指導を受け、学びました。万葉集、歌集、写生文などの研究や、炭焼きの改良、竹林栽培、農地改良などを行いました。同時に全国各地を旅行し文学研究に励みました。これらの体験により、農民文学『土』に結実しました。長塚節の『土』誕生のわけは漱石が長塚節の「佐渡が島」という写生文を読んで、東京朝日新聞に連載させたことによります。夏目漱石は、東京朝日新聞に連載中の「門」が完結したらその次に『土』を連載するという手紙を節に送りました。その解説は桐原光明氏。漱石の『土』連載予告文は「東京朝日新聞」に掲載。『土』は明治 43 年 6 月 13 日より 11 月 17 日まで東京朝日新聞に連載し 151 回で完結。夏目漱石はその 1 年半後に春陽堂から単行本として刊行された長塚節の『土』の序文として「土に就て」を書いています。

人間は様々な人間関係、自然への観察対応などを通して今まで気づかなかったことを発見します。年月が経過する程人は知らなかった貴重なことに気がきます。まさに歳を重ねれば重ねる程人間と事物が光り輝くことを知らされます。

いたばし ひでお／筑西市郷土史を考える会会員 郷土史研究家